

荒川の自然を守り、未来をつくる



まとまった自然が残る河川敷は、人や野生動物植物にとって貴重な空間です。皆さんと力を合わせて荒川の未来をつくりましょう



ときに荒ぶる川の表情を見せる荒川ですが、都市化が進む流域に残された貴重な空間として多くの人に利用されています。

また、広大な河川敷にはまとまった自然が残り、上流域では約3千種の動植物が確認されています。荒川ではその保全活動を国や自治体、地域住民やボランティアの皆さんの協働で支えています。

今、皆さんの「気づかい」がより大切になっています。子どもや高齢者、野生動物植物を思いやる気持ちを持って荒川へ出かけてみませんか。そして、荒川づくりに参加してみませんか。一緒に荒川の未来をつくりましょう。

保全活動に参加してみませんか！ 皆さんの力で自然を守りましょう

開平橋上流の河川敷に残っている三ツ又沼は、荒川と入間川がかつて合流していた付近の旧流路の一部です。この沼を中心とした地域には、水生植物や湿地性の植物が茂り、かつて身近で見られた動植物のほか、希少な在来植物も多く確認されています。

この一帯はビオトープとして保全されており、荒川上流河川事務所では学識経験者、環境団体、地域住民、自治体などと連携しながらパートナーシップによる保全部管理が行われ、毎月様々な保全活動が実施されています。皆さんの力で荒川の自然を守りましょう。詳しくはホームページで。



三ツ又沼ビオトープは人と自然がつながる場所です



官 民 連 携 で

川づくりを進めています

もっと楽しく、快適に利用しましょう。 ほんの少しの気づかいをお願いします。

荒川の利用者数は年間約2535万人（推計）*です。これを沿市区町村の人口からみると、年間平均で1人当たり3.5回*利用しています。利用者が増加し利用形態が多様化する中で、利用者の皆さんがお互いを思いやり、声をかけ合うことで、荒川をもっと楽しく、さらに安全で快適に利用できるようになります。皆さんのほんの少しの気づかいをお願いします。

*平成26年度河川水辺の国勢調査
(河川空間利用実態調査編・国土交通省)



「通ります」の一言が安全につながります

武州・入間川プロジェクト 保全活動などの費用を助成します

荒川上流河川事務所は武州ガス(株)、(公財)埼玉県生態系保護協会と連携して、入間川流域で市民団体などが行う環境保全活動、河川環境や防災などの学習活動の費用を助成しています。

対象は入間川流域の8市8町1村の市民団体や学校などの非営利団体で、1団体20万円が上限です。詳しくは、入間川環境保全支援委員会事務局(電話 048-645-0570)、またはホームページへ。

